

内部非公開の文化財建造物を期間限定で観覧できる
横浜・三溪園『鶴翔閣』『旧天瑞寺寿塔覆堂』特別公開
2023年8月11日(金)～16日(水)

国指定名勝「三溪園」（所在地：横浜市中区）では、2023年8月11日(金)から16日(水)まで、横浜市指定有形文化財『鶴翔閣』および重要文化財『旧天瑞寺寿塔覆堂』を特別公開します。また、「三溪園」の創設者・原三溪の命日である8月16日(水)には、横浜芸者による三溪が作詞した復興小唄『濱自慢』の演舞とお座敷遊びイベントを開催します。

通常は内部を非公開としている2棟の文化財建造物を観覧できますので、この夏は「三溪園」で、桃山・江戸・明治・大正時代の日本にタイムスリップした気分をお楽しみください。



三溪園の創設者・原三溪は、製糸・生糸貿易の事業に携わる傍ら、それにより得た富を日本庭園の造成、日本や東洋の古美術の蒐集、新進の芸術家たちへの支援などに注ぎ、近代日本文化の醸成に貢献しました。

横浜にも壊滅的な被害をもたらした1923(大正12)年の関東大震災時は、「横浜市復興会」「横浜貿易復興会」の会長を務め、港湾施設の再建や生糸貿易の復活に尽力し、私財を投じて横浜の復興に寄与しました。また、市民の活気を取り戻すため、復興小唄『濱自慢』を自ら作詞し横浜の花柳界を通じて唄いひろげられましたが、旋律は長年不明のままでした。しかし、2009(平成21)年と2011(平成23)年に、相次いでそれぞれ1930(昭和5)年、1925(大正14)年に収録したレコードが発見され、その曲調が明らかとなりました。

関東大震災から100年を迎える本年、かつて三溪の私邸であった鶴翔閣にて、初めて大正期収録のオリジナル音源を使い横浜芸者による『濱自慢』の演舞を8月16日(水)1日限りで開催します。あわせて、期間中は、横浜を象徴するかのようなかモメの画に歌詞を記した三溪自筆の掛軸作品『濱自慢』を三溪記念館にて展示します。

横浜市指定有形文化財『鶴翔閣』特別公開

三溪が家族とともに暮らすための住宅として1902(明治35)年に建てた、延床面積約950㎡におよぶ木造建築。その名称は「鶴が飛翔する姿を思わせる印象から」といわれています。横山大観などの近代美術家が出入りした文化サロンとしての側面も持ち、鶴翔閣で描かれたと伝わる作品も多数存在します。本年は、三溪が関東大震災復興時に果たした役割や三溪園と震災にまつわる建築の今昔についてご紹介します。

日程 | 2023年8月11日(金)～16日(水)

時間 | 9:00～16:00

料金 | 無料(入園料のみ)



重要文化財『旧天瑞寺寿塔覆堂』特別公開

豊臣秀吉が母・大政所の長寿を祈って建てた生前墓の寿塔を保護するための建造物。1591(天正19)年に京都大徳寺子院の天瑞寺(現在は廃寺)に建てられ、1905(明治38)年に三溪が内苑に移築した最初の古建築です。桃山時代らしい手の込んだ華麗な彫刻や重厚感のある入母屋屋根は通常時でもご覧いただけますが、本期間中に限り、戦後に復原した色鮮やかな彩色が残る内部をご覧いただけます。

(建造物保護のため、外からの見学となります。)

日程 | 2023年8月11日(金)～16日(水)

時間 | 9:00～16:30

料金 | 無料(入園料のみ)



横浜芸者による復興小唄『濱自慢』演舞とお座敷遊び

開港を機に、西欧文化をいち早く取り入れた横浜の花柳界。外国語を話し、社交ダンスなどを踊る芸者も数多く存在していました。横浜の歴史を大切にしながらも、時代に合わせた変化を恐れない横浜芸者の華麗な演舞をご覧ください。当日は、お座敷遊びもお楽しみいただけます。

日程 | 2023年8月16日(水)

時間 | 10:30-10:40 演舞10分

11:00-11:40 演舞40分

12:30-13:10 お座敷遊び体験40分

13:30-13:40 演舞10分

14:00-14:40 演舞40分

15:00-15:40 お座敷遊び体験40分

会場 | 鶴翔閣

定員 | 30席(立ち見も可能) *混雑時は人数制限をおこなう場合があります。

料金 | 無料(入園料のみ)

主催 | 特定非営利活動法人 横浜芸妓組合



◆三溪園について

三溪園は生糸貿易により財を成した実業家・原三溪によって創られ、1906(明治39)年5月1日に一般公開されました。約17.5ha(東京ドーム約3.7個分)に及ぶ園内には、廃仏毀釈などによる荒廃から守るため、京都や鎌倉などから移築された歴史的価値の高い建造物が巧みに配置されており、古建築と自然が調和した四季折々の景色が楽しめる日本庭園です。開園当初は「遊覧御随意」を掲げ外苑を24時間無料開放するなど、「美しいものはみんなで一緒に楽しむもの」という原三溪の想いが反映されています。原三溪の存命中は新進芸術家の育成と支援の場ともなり、横山大観、下村観山、前田青邨らを輩出するなど、日本美術への貢献も評価されています。戦災により大きな被害をうけ、1953(昭和28)年に原家から横浜市に譲渡されるのを機に財団法人三溪園保勝会が設立され、現在に至ります。2007(平成19)年には国の名勝に指定され、現在園内にある17棟の古建築のうち10棟が重要文化財、3棟が横浜市指定有形文化財に指定されています。

◆原三溪について

原 三溪 (本名 富太郎) <1868(慶応4)年 - 1939(昭和14)年>

岐阜県厚見郡佐波村(現在の岐阜県岐阜市柳津町)で代々に渡り、庄屋をつとめた青木家の長男として生まれる。幼少の頃から絵・漢学・詩文を学び、1885(明治18)年、東京専門学校(現在の早稲田大学)に入学、政治・法律を学ぶ。1888(明治21)年頃に跡見学校の助教師になり、1891(明治24)年、原善三郎の孫娘、屋寿と結婚し原家に入籍。原家の家業を継ぐと、経営の近代化と国際化に力を入れ、実業家として成功を収める。住まいを本牧・三之谷へ移すと古建築の移築を開始し、1906(明治39)年、三溪園を無料開園。1923(大正12)年の関東大震災後は、荒廃した横浜の復興に力を注ぐ。三溪自身も書画をたしなみ、その作品の一部は、園内の三溪記念館に収蔵されている。

施設概要

施設名	三溪園(さんけいえん)
運営	公益財団法人三溪園保勝会
所在地	〒231-0824 神奈川県横浜市中区本牧三之谷58-1
連絡先	TEL 045-621-0635
公式HP	www.sankeien.or.jp
Instagram	www.instagram.com/sankeien_garden
Twitter	twitter.com/HSankeien
入園料	大人700円/小中学生200円 横浜市内在住の65歳以上200円(公的証明書の提示が必要)
開園時間	9:00~17:00(最終入園16:30) 『観蓮会』開催日は7:00開園
アクセス	JR根岸線根岸駅から市営バスで10分「本牧」下車、徒歩10分 横浜駅東口から市営バスで40分「三溪園入口」下車、徒歩5分



本リリースに関する報道関係者からのお問合せ

公益財団法人三溪園保勝会 事業課 広報担当 岩本・加藤

TEL: 045-621-0635 / FAX: 045-621-6343

MAIL: iwamoto@sankeien.or.jp